

中部の未来創造大賞では次のような活動を表彰しています。

1. 住民、企業・学校、行政等が工夫して取り組んでいる地域づくりの活動で、以下に該当するもの
 - 生活・自然環境の保全を行っているもの
 - 景観の向上を行っているもの
 - 観光資源として活用しているもの
 - 地域づくりに関連した情報発信を行っているもの
 - 資源の再利用を行っているもの
 - 公共施設の整備にあたって、コスト削減等に有効な新技術、新工法の研究開発を行っているもの
2. 災害時の人命救助、復旧活動や防災に関する活動
3. 伝統的な建造物の保存、復興等を行っている活動

第23回「中部の未来創造大賞」の募集 ■令和4年5月下旬に募集開始予定

委員長 三重大学名誉教授 **渡邊 悌爾** わたなべ ていじ

コロナ禍の厳しい状況下で、オンラインの現地調査を余儀なくされたが、応募頂いた団体は若い人たちの創意工夫や創造的な活動が多く見られ、長年の活動に賞賛を送りたい。今後とも、地域愛に基づき、未来を切り開いていって頂きたいと思います。

副委員長 駿府静岡歴史楽会 事務局代表 **竹内 礼子** たけうち れいこ

人とのつながり
今年是人と人とのつながりを求める活動が多かったように思いました。困っている人を守りたい、遠くの人との結びつきを生み出したいという気持ちの温かさを感じました。長く継続されることを期待します。

委員 名古屋大学大学院教授 **小松 尚** こまつ ひさし

地域を変えていく、良くしていく思いとともに必要なことは何かと常々考えます。今回は多くの活動から「時間」のもつ意義、価値が伝わってきました。コロナ禍という時間も、きっとその糧になっていくことでしょう。

委員 名古屋工業大学教授 **増田 理子** ますだ みちこ

コロナ禍にもかかわらず、継続した様々な取り組みが行われていることを知り、とても頼もしく感じました。現地を見学することができず、オンラインによる審査となりましたが、頑張って活動されている方々の力強さを感じることができました。

選考を終えて（表彰委員より）



委員 中日新聞社事業局次長 **長坂 誠** ながさか まこと

幅広い年代の方々が、いろいろな形で郷土を発展させていると活動に取り組まれていることが印象的でした。SNSの利用に加えて、今回はSDGsを念頭に置いた活動が目立ちました。感染症を克服して、地域づくり活動がますます活発になるよう祈念します。

委員 (一社)中部経済連合会常務理事 **栗原 大介** くりはら だいすけ

各団体ともコロナ禍で思うような活動ができない中、地域内連携で素晴らしい取り組みを進めてもらっている。とりわけ次世代を担う若い学生たちの参加が増えていることは大変喜ばしく、この輪が今後更に広がることを期待しています。

委員 国土交通省中部地方整備局 企画部長 **林 正道** はやし まさみち

地域内外の方が繋がることにより課題解決をする仕組みを構築するという新たな取り組みや、学生ら若い世代が積極的に活動へ参加する取り組みなどがあり、地域の未来に期待が持てました。
今後もみなさまの活動がさらに継続・発展し、この地域の持続的な発展を支えていく原動力となることを期待します。

中部の未来創造大賞推進協議会

国土交通省中部地方整備局・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県・静岡市・浜松市・名古屋市・中日本高速道路株式会社 名古屋支社 名古屋高速道路公社・独立行政法人 水資源機構 中部支社・地方共同法人 日本下水道事業団 東海総合事務所
独立行政法人都市再生機構 中部支社・公益社団法人 土木学会 中部支部・一般社団法人 中部地域づくり協会
一般社団法人 日本建設業連合会 中部支部・一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 中部支部・一般社団法人 長野県建設業協会
一般社団法人 岐阜県建設業協会・一般社団法人 静岡県建設業協会・一般社団法人 愛知県建設業協会・一般社団法人 三重県建設業協会
株式会社中日新聞社 後援／一般社団法人 中部経済連合会

FUTURE CREATION 2021 中部の未来創造大賞

主催／中部の未来創造大賞推進協議会

中部の未来創造大賞 で 検索

中部の未来創造大賞推進協議会事務局
一般社団法人 中部地域づくり協会 業務管理部
TEL (052) 962-9455

URL <https://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/mirai/index.htm>



みなさんの「地域づくり」の活動を応援します

第22回

FUTURE CREATION 2021

中部の未来創造大賞



中部の未来創造大賞推進協議会

第22回「中部の未来創造大賞」について

「中部の未来創造大賞」は、地域づくりのための活動を表彰し、新しい時代にふさわしい中部の発展とその啓発を促進しようとするものです。第22回目にあたる今回は35件の応募をいただきました。表彰委員会による審査の結果、大賞1件、優秀賞3件、特別賞2件、奨励賞3件が選考されました。本冊子は、これらの選考された活動の概要を紹介するものです。今後の地域づくりに広く役立てていただければ幸いです。

■受賞の対象

- ・受賞の対象は、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県における社会資本整備及び、その利用・保全に関する活動に顕著な貢献が認められるもの
- ・個人又は、団体(自治体、企業、NPO等)を対象



CONTENTS

第22回「中部の未来創造大賞」について	1
大賞 地域を超えて支え合う、「お互いさま」が広がるプロジェクト「ヒダスケ!」 岐阜県飛騨市	3
優秀賞 鎮守の杜再生活動事業 諏訪湖浄化推進「和限」	5
優秀賞 「CWPだからできること」 ～SDGs達成に向けた取り組み～ 一般社団法人ClearWaterProject	6
優秀賞 多様なアクターによる環境保全 「久留女木の棚田 耕作放棄地再生プロジェクト」 引佐耕作隊	7
中日新聞社賞 きれいな海を守る心を広げるためのプロジェクト 環境ボランティアサークル亀の子隊	8
中部経済連合会賞 「天然記念物」ヤマネを通じた環境保全活動 尾鷲市立尾鷲小学校	9
奨励賞 高校生による地方創生活動 静岡県立島田商業高等学校	
We can do it ～学びを生かした 地域貢献活動～ 中津川市立阿木高等学校	
牛若 ～鉄人たちの橋の再生物語～ ウシワカ製作委員会	10
選考を終えて(表彰委員より)	11

地域を超えて支え合う、「お互いさま」が広がる プロジェクト「ヒダスケ!」



岐阜県飛騨市

URL <https://www.city.hida.gifu.jp/>



「ヒダスケ!」は、地域の「困りごと」と参加者の「お助け」が循環することで、地域内外の人の交流と支えあいを創出するプロジェクトです。市民発案のプログラムに全国から参加者を募ることで、人口減少による課題解決と地域の魅力の維持につなげていきます。

岐阜県飛騨市は、人口約23,000人の過疎地です。人口減少により地域活動や祭りの担い手はもちろん、介護や医療、製造業やサービス業など地域産業の従事者の確保が困難になっています。しかし、飛騨市では、人口減少を不可避な現実として受け止め、それを前提とした地域づくりをしなければならないと考え、2017年より「地域外の人との交流」をポイントに事業を展開しています。

プログラムは、農村の景観を保全するための石積みの修繕や草刈り、トマト農家や果樹園の農作業の手伝い、食品メーカーの新商品のアイデア出しやPRなど多岐にわたります。「お助けをいただいた」参加者には、「オカエシ」として主催者の創意工夫で用意する野菜等のお礼や電子地域通貨を用意するなどして地域経済の一助にもなっています。これまでに、105を超えるプログラムが生まれ、延べ1000人を超える参加者があり、たくさんの「お互いさま」が広がっています。

人口減少先進地の飛騨市は困難な課題ばかりですが、課題は交流資源になります。全国の皆さんを頼って、集い、語りながら活動を進めることで、市内に前向きにチャレンジするムードが生まれています。

今後も楽しく感謝しあえる「ヒダスケ!」の輪を全国に広げていけるよう活動を続けていきます。



耕作放棄地を活用して米づくりに挑戦



オンラインでアイデア出しやPRのお手伝いも実施



飛騨市宮川町種蔵地区景観保全のためにミョウガ畑の復活を目指します



プログラム終了後は主催者から参加者へお礼に「オカエシ」



諏訪湖浄化推進「和限」



私ども諏訪湖浄化推進和限は、諏訪湖の富栄養を吸収した水草を堆肥にして、発生元である農地、山地に戻して、湖、河川の浄化を進め水草の処理におけるCO₂、CH₄の発生を減らし、竹炭づくりを行い農地、山地に炭素保全を行うことで、温室効果ガス削減を行っています。この活動を行うと同時に、災害地で活動を行っている、東日本大震災地で植林を行っているどんぐりモンゴリさん、長野市穂保台風19号被害地で活動を行っていた農業ボランティアさん、長野県全国植樹祭、県民植樹祭を始めとした各地で行われている植樹協力を行っています。毎年諏訪湖で行われている、諏訪市アクアソーシャルフェス参加のボランティアさん、岡谷市のこどもエコクラブと一般ボランティアさん、下諏訪町では高校生、一般の長野県ボート協会の方々が引き上げた水草の堆肥化を進め、その中に竹炭など植生の資材をブレンドして作っています。その堆肥を使い平成18年に起きた岡谷市の土石流跡地の植樹祭を行った場所では、表土づくりを行った樹木の生長は約3倍近く速い成長がありました。これからは気象変動のため、各地で大雨による洪水、土石流などの災害が増えていきます。その防止の為にもこれからの山のあり方が重要になります。私は本来その地域における樹木の形成は鎮守の杜を手本とした形で、根張りの形による土嚢と杭のように土壌を抑えることで、森を守ることになります。もし各地域で、植林、災害、害虫など森再生の協力依頼があれば協力させていただきます。



私共の水草堆肥、竹炭を使った現地での利用も行いました。岩沼市(千年希望の丘)で行われたどんぐりモンゴリさんが行った植樹ヤード



諏訪市、信濃毎日新聞、トヨタアクアソーシャルフェス、で行われた諏訪市での水草引き上げ作業

『CWPだからできること』
～SDGs達成に向けた取り組み～



一般社団法人ClearWaterProject

URL <https://clearwaterproject.info/>



「自分ができることはなんだろう」

私たちClearWaterProject (CWP) が活動する中で、大事にしている発想です。

“SDGs” 持続可能な開発目標”という言葉は聞いたことがあるけれど、実際に、自分ができることはなんだろう、なにを気にすればいいのだろう、そのように思う人は多いのではないのでしょうか。

CWPは、ITを環境や水辺に活かしたアプリやシステム開発、市民や行政と連携した川づくり・まちづくり、環境学習等に取り組んでいます。

『SDGsは良いこと』『SDGsは必要なこと』という、どこか漠然としてしまうSDGsという存在を、“自分事として捉える”にはどうしたらいいのか、常々考えながら取り組んでいます。

「地域の川で採れた生き物から、川の水質や生態系を知る」という学校の授業では、現状や生態について児童とクイズ形式で楽しみながら「地域を守る一員としてできること」をメッセージとして伝えます。ふるさとの環境を守る一員として、大人でも子供でも、誰にでもできることが必ずあり、学びを行動に移すことが、SDGsの達成に重要と考えています。

今後は、学校で児童に配布されているタブレットを活用する環境学習も展開していきたいと考えています。

ITの知識ノウハウだけでなく、環境や水への取り組みも行うCWPだからできるプログラムを考案し、みんなで「自分ができること」を共有して、SDGs達成に向けて取り組んでいきます。



学校現場でSDGsに関する授業の講師を担います



地域の川で生き物を探し、生き物を通じて地域の環境を学びます

多様なアクターによる環境保全 「久留女木の棚田 耕作放棄地再生プロジェクト」



引佐耕作隊

URL <https://www.suac.ac.jp/topics/topics/2019/01889/>
<https://www.facebook.com/InasaKosakutai/>
<https://twitter.com/inasakousakutai>



引佐耕作隊は、2016年4月から久留女木の棚田(浜松市北区引佐町久留女木地区)における耕作放棄地の解消を目的に活動を開始しました。農作業は学生主体で春から秋にかけて週に1回の頻度で行っています。2021年度は2枚の田んぼ(286㎡)を耕作し、105kgのお米を収穫しました。

収穫したお米は大学生協購買や浜松市内の飲食店等において「久留女木 棚田の恵」という商品名で毎年販売しています。商品のパッケージデザインやポスターには「棚田の多面的機能」が消費者の方々に伝わるようなデザインを採用しています。耕作された棚田には、食糧生産の他に水源涵養・生態系の多様化・美しい景観の創出・都市農村交流の機会提供といった機能があり、これらは「棚田の多面的機能」と呼ばれています。その恩恵は棚田周辺の地域住民だけでなく都市住民も享受しています。商品を購入することで棚田を耕作していない人にも棚田の保全に関わってもらい、販売利益は今後の活動費に充て持続可能な活動を目指しています。また、都市部におけるイベントで活動報告を行うなど「棚田の多面的機能」を都市住民に広く知ってもらおう活動も展開しています。

今後の目標は、面積当たりの収穫量と耕作面積を増やすことです。収穫量を増やすことで商品の販売個数を増やし収益を増やすとともに、より多くの人に棚田や「棚田の多面的機能」の重要性について知ってもらう機会を創出したいと考えています。また、棚田に関わる人を増やしていくなかで、様々なアクターを巻き込み棚田保全に取り組んでいきたいです。



学生主体で田植えを行う様子



販売した「久留女木 棚田の恵」(2021年度)



引佐耕作隊

きれいな海を守る心を 広げるためのプロジェクト



環境ボランティアサークル亀の子隊

URL <https://www.kamenoko.org>



亀の子隊は「きれいな海を守りたい」ということで、大きく3つの活動をしています。1つ目は、海の環境を守るためのボランティア活動としての「海の環境を守るための自然美化活動プログラム」です。「西の浜はゴミ箱じゃない」をスローガンにした「西の浜クリーンアップ活動」を毎月1回、愛知県渥美半島西の浜海岸で行っています。この数年、世界的な話題になっている海ゴミ問題やSDGs、地域貢献活動などが広く認知され、県内の様々な地域からの参加者があります。

2つ目は「海の大切さ・よさを知る体験的環境学習プログラム」です。「海の環境を学ぶ会」として「スナメリ観察会」「磯の観察会」「スノーケリングの会」「干潟観察会」「ビーチコーミング」「海水から塩を作る会」「西の浜の魚を触って味わう会」「水族館見学会」など年間、7~8回実施しています。こうした体験が「きれいな海を守る心」を育てるのだと考えます。

そして、3つ目は、「気づきを伝える広報プログラム」です。様々な環境イベントでは、西の浜のゴミの様子などをパネル展示することによって愛知県の海の現状を伝えています。スナメリの死体の写真や愛知県はもとより、岐阜県、三重県地名が入ったゴミゴミも漂着していることを紹介し、啓発活動を行っています。

加えて、思いを広げるために毎月のチラシ配布と、年に1回手紙作戦を行い、100の事業所に「きれいな海を守りたい」という子供たちの思いを伝えるための手紙を届けています。

また、「つながる」ことによって「思いを広げる」ことを重視し、伊勢湾上流域の人たちを対象に、西の浜の漂着ゴミの現状を伝え、海のよさ・大切さを学ぶための「エコツアー」をなごや環境大学と連携して年に2回実施しています。



海の大切さ・よさを知る体験的環境プログラム
海の環境を学ぶ会【スノーケリングの会】



海の環境を守るための自然美化活動プログラム
【西の浜クリーンアップ活動】



気づきを伝える広報プログラム
【パネル展示】



尾鷲市立尾鷲小学校



尾鷲市立尾鷲小学校には、大規模災害時における緊急輸送路、また、平常時におけるアクセス時間の短縮として造られた「命の道」と呼ばれる熊野尾鷲道路があります。その道路を造る際に尾鷲の山には国指定天然記念物のヤマネがいることがわかりました。人の命を守る道路を造りつつ、自然に生きる動物との共生を図るために自分たちにできることはないのか、それがこの取り組みのきっかけになります。

2016年から始まったこの取り組みは、ヤマネたちが食べるイズセンリョウといった植物を育てたり、国土交通省が設置したアニマルパスウェイの様子を観察したりすることで、その山に生きる動物についての生態を学習してきました。また、南海トラフ巨大地震が発生した際に、熊野尾鷲道路は津波浸水区域を回避しているため、防災道路としての役割があるなど、熊野尾鷲道路が何のために造られたのかも知ることができました。そして、尾鷲の山にはヤマネなどといった動物が住んでいることを多くの人に知ってもらうために、地域の人への発信や島根県の隠岐の島の小学校とオンラインで交流をしていきました。

5年間を通して、子どもたちは、自分たちの身の回りには豊かな自然があり、その中で生きている動物との共生の仕方について学習してきました。今後も、尾鷲の自然が在り続けるよう、自分たちにできることを行っていきます。



銚子川での自然観察



ヤマネの餌となる苗木づくり



活動名 ● 高校生による地方創生活動

受賞団体 ● 静岡県立島田商業高等学校

私たちは魅力ある街づくりを目指し、地元島田市を活気づけようと、オリジナル商品の開発やイベントへの参加を行っています。中でも「和菓子バル」は、島田市と連携して企画・運営を行い、ポスター制作をはじめ、地元和菓子を江戸風情残る川越し街道において、着物姿で販売する取り組みをしました。島商生のおもてなしの心が多くの方に届けばと思っています。



「和菓子バル」ポスターと制作した珠算部

活動名 ● We can do it ～学びを生かした 地域貢献活動～

受賞団体 ● 中津川市立阿木高等学校

阿木高校では、地域の加工場として、地元農家の販売できない果実を使ったジャムを製造し、地元農家の収入と食品ロス削減に貢献しています。今年度からは、授業で学んだことを生かし、ドライフルーツ製造、販売できないジャムの活用、廃棄ジャムの昆虫用ゼリーへの加工などの活動に取り組んでいます。今後も地域と連携し、地域に貢献できる活動に取り組んでいきます。



連携リンゴ農家の方と

活動名 ● 牛若 ～鉄人たちの橋の再生物語～

受賞団体 ● ウシワカ製作委員会

皆さんが毎日当たり前のように使っている橋。この当たり前は、様々な立場で橋の補修作業に携わる技能者達の手によって支えられています。その姿はまるで橋を縦横無尽にかけ巡る牛若丸の様に。

私たちは、この「ウシワカ」たちの熱い志を世の中に広く訴え、インフラ再生事業に一人でも多くの人に興味を持ってもらうことで、建設業界の持続的発展に貢献していきます。



ウシワカ達の志、誇り高さ挑戦